

公共施設再配置（更新素案）についての地区説明会における質問及び回答（大須賀中学校区・R6.7.30開催）

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
1	再配置の方向性	将来の見通し	期毎の税収予想のシミュレーションは？	<p>掛川市の一般会計総額がおおよそ550億円、税収がおおよそ200億円です。リーマンショック(2009)以前は230億円ありましたが、以降は過去10年間ほぼ変わらず、今後も好転するということはほぼないと思います。毎年30億円不足するという話がありましたが、30億円というのは市が毎年度道路工事や河川の改修、その他地元要望等で様々なことを行うのに60億円掛かり、その内26億円は国・県の補助金ですので、あまり市の裁量はありません。残りの34億円は市が自由に使えるお金で、地元要望を受けてカーブミラーを付けたり、災害時の復旧をしたりしています。つまり30億円不足ということは、市が自由にできる建設投資がゼロになってしまうということになります。税収が今後著しく下がると、そもそも30億円以外にもまもなくなくなってくるので、税収がなんとか担保できるように企業誘致を行ったりしながら、法人市民税が著しく減らないようにし、個人市民税の減収を緩やかにしていくことが求められています。今後10年間、税収200億円レベルを維持する見通しを持っていますが、確実に担保できるようにやっていきたいと思っています。</p>	
2	再配置の方向性	少子高齢人口減少	資料1 P8：掛川市中心部は人口増、大須賀は20%減少。どうしてこうなるのか、数字上はわかるが深く分析をしたか？	<p>たまたま市の中心部に民間開発があり、人口増となっていますが、今後もこの状況が続くかという点、中心部でも今後はマイナスになっていく予測しています。掛川市だけでなく全国で人口減少時代が到来していますので、その中で我々は物事を考える必要があります。今日は公共施設再配置のお話ですが、人口が減って利用することが少なくなった、更に建物が増える、だから公共施設のあり方を考えましょうということなどを皆さまと行っているわけですが、市として見れば公共施設だけでなく、人口が減っている地域にどのようなことを行っていくか、人口減少の中でのまちづくりが大命題だと思っています。公共交通・移動手段の確保、地域福祉、自治会役員の成り手をどうするのか、こうしたことも含めて考えていかなければなりません。人口減少は全国的な課題ですが、街中も決して増加傾向というわけではなく、ここ数年の民間開発が続いた結果であり、小学校の再編もやらなくてはならないという段階です。</p>	
3	再配置の方向性	小中学校の再編	教育施設は延床面積が大きい中、複合化するのが早い小学校の統合を詳しく説明して欲しい。	<p>学校再編を同時並行的に進めていくのは困難なため、現中学校区ごとの課題（施設老朽化、児童・生徒数の増減等）を踏まえて再編の検討順を設定しています（学校再編計画P18）。</p> <p>ただ、児童数が100人を切る小規模校は、子どもの学びや学校の運営上様々な課題があると考えています。全学年が単学級（＝1学年1学級）でも、1学年20人程度の児童がいれば十分な教育活動ができると考えられますが、十数人になるとそれが難しいため、目安としては児童数が100人を切った段階で統合に向けた検討をスタートすることが望ましいと考えられます。昨年、策定した学校再編計画にも明記しております。</p>	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
4	再配置の方向性	小中学校の再編	学校（小中学校）大淵小学校の再編成についての計画を詳しく説明して欲しい。検討時期。	大須賀中学校区の再編時期は全体の9番目で、学校再編計画におけるⅢ期後半での再編を計画しています。しかし、大淵小学校については2029年に児童数が100人を切ることが見込まれるため、学区全体の再編から先行する形で横須賀小学校との統合に関する検討を開始することを考えています。	
5	再配置の方向性	少子高齢人口減少	公共施設の統廃合が人口減少を加速する要因とならないのか。	公共施設のサービスをできるだけ集約した上での複合化は、公共交通の維持も含め、サービスを集中させることでなんとか維持をしていきたい、人口減少の加速をできるだけ緩やかにしていきたいという意味での御提案です。	
6	検討の進め方	情報共有	今日のような説明会で出た質問等の回答はまとめて各地区へ周知される？	説明会は9地区で開催しており、御質問と回答・御意見は、9中学校区全ての説明会が終わりましたら、市ホームページで公開する予定ですので、御確認ください。	
7	再配置の方向性	25%削減の目標設定	公共施設延床面積25%減と基本方針にあるが、不必要ならもっと削減すべきだし、必要なら残すべきであって、一律25%減と決めない方が良いのではないのか？	将来更新費用が年間70億円、用意できる財源が年間40億円、不足する金額が年30億円ということで、この差額を埋めるには延床面積換算で25%削減が必要とお話しした中で、もちろん不必要なものを残すことではないので削減していくべきですし、必要なものを削るということではありません。ただ、お示ししている更新素案のまま進んだとすると25%削減を達成できますが、例えば20%に留めた場所があると、公共施設以外のところで支出を減らす必要が出てきます。収入は限られているので、どこか他の分野でやりくりをしなければなりません。そうした中で、今よりお金を掛けることができないという視点で見た時の25%なので、少なくともこれは進めていかないと全体の財政需要、例えば医療・介護等の需要に支えていけないのではないかとということで導いた目標です。延床面積以外の形で、例えば運営費を抑えていくことも含めて25%分を減らしていかなければならない状況にあるということを御理解頂ければと思います。	
8	説明会	説明内容	埼玉県吉川市の複合施設の施設老朽化対策は市が払ったか。又は民間が払ったか。	新築をした小学校の施設自体は行政が費用負担して複合化施設になったと聞いております。	
9	再配置の方向性	個別施設の方向性	沢上団地、暦団地の統合とは新しい団地を造って、既存の団地を取り壊すという事ですか？	現段階では、双方の団地を取り壊して、新しい団地の建替を計画しています。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
10	再配置の方向性	縮充	サービス向上って具体的に何？病院機能が欲しい。	現時点で、大須賀支所は支所機能と金融機関(JA遠州夢咲)が同居してサービスを提供していますが、施設が分かれているものを複合化し1つの施設になることで、サービスを集約することができます。大須賀地区の場合は、既に支所周辺にある程度の行政サービスが集約されていますが、先ほど申し上げた学校再編も含め、時期が異なる場合もありますが、皆さまが足を運ぶ場所が複数に及ばないようにしたいと思っています。 また、病院機能が欲しいという御要望について、今後不要となった施設は民間事業者に譲渡することも考えられますが、その場合も何が必要かを地域の皆さまと協議しながら、例えば公募の時に具体的な条件を付ける等もしていきたいと思っています。	
11	再配置の方向性	時期	大須賀中学校区の学校再編に伴い、支所周辺の複合化の時期を後ろにずらしたとの事だが、学校再編はⅣ期であり、どのように時期が関連して後ろにずれたのか理由が分からない。時期が学校と支所回りで異なっている事からも、それぞれの整備位置は異なるのではないかと思うが、そうした点からも、学校再編の検討に伴って後ろにずらしたという理由はよく理解できない。学校と近い場所で全体を集約していくことを前提にしているためか？	計画当初の令和元年では、支所周辺の複合化と学校再編は最初の時期、色でいうと赤の時期(Ⅰ期)に想定していました。小中学校の再編が想定される中で、支所周辺機能についても一緒に考えたいということで同時期に設定していましたが、令和5年度に学校再編計画が策定され、学校再編の検討時期が一番最後になりました。支所周辺機能も同時期に検討するのが一番いいと思っていますが、それまで施設がもたないだろうと想定で、ぎりぎりまで持った中で複合化の検討はⅢ期と設定しております。もし色々な状況が変わり同時期に検討ができることであれば、同時期に全体を合わせて検討したいと思っています。	
12	再配置の方向性	個別施設の方向性	大須賀支所の周辺は多岐にわたる施設が存在し、いずれも住民生活に重要な役割を担っている。既に集約されている点が他地区と大きく異なる点。一方、築後の年数は差があるが、構造的に鉄骨造の図書館は築32年、RC造の中央公民館は築42年と耐用年数が近づいている。15年後から検討を始めるとのことだが、本当に大丈夫か。また、躯体は仮に何とか保たれたとしても、電気設備、給排水設備は耐用年数15年とされている。古い設備に付帯する機器については互換の効かないものもあり得る。15年後からの検討、その後の設計、建築となると本当に地域に必要な機能はそれまで保たれるのか。	仰るように躯体には寿命があり、60年と設定しています。設備は10~15年で耐用年数を迎え、どんなに長くもっても20年位で駄目になります。躯体が寿命を迎える少し前の時期に検討を始めようと思っていますが、それまでは安全に使えるよう管理していきたいと考えています。支所周辺の建物では、中央公民館はまだ良い方ですが、児童館・老人福祉センターがあまり良くない状況で、雨漏りが多くなっています。ただ検討は15年後、実現は20年後ということで、今年、寿命を全うできるように外壁と屋根の改修を予定しています。また設備に関しても耐用年数の段階まで持つように、必要があれば更新していく予定です。設定された時期までは安全に使えるように管理してまいりますので、御理解頂ければと思います。	
13	再配置の方向性	少子高齢人口減少	資料1 P8：中心部での人口増の要因は何ですか？	東・西・北中学校区において、市役所・西郷I.C・東名掛川I.C周辺等、区画整理事業や民間の開発がいくつかあり、人口の維持もしくは多少の増加になったと思われます。	
14	再配置の方向性	交通手段	公共施設の再配置と市民の足である公共交通については、どのような対応をするのか。	地域ごとに施設を集約しながら地域拠点を作ることで一定の需要を集め、公共交通の維持に繋がりたいと考えています。また、公共施設へのアクセスに限らず、公共施設全体として既存のバスやデマンドタクシー、地域支援車、AIや自動運転などの新技術の活用も含めて今後新たな公共交通のあり方を検討してまいります。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
15	再配置の方向性	縮充	譲渡先が見つからない場合、また譲渡先が廃業した場合、建物の解体はどうなりますか？	現在、旧大淵幼稚園は建物付で公募を掛けておりますが、私共が一番恐れているのは、建物がそのまま残りどんどん寂れ、危険になっていくことです。施設の所有者は市なので、どこかの段階で解体することを考えています。また、譲渡先が廃業した場合は、所有者としては既に譲渡先へ移っている状況でございますので、建物の解体は譲渡先の役割になります。もし危険な状態であるにも関わらず進まないということであれば、市からも状況を是正してもらいたい等をしてまいります。	
16	再配置の方向性	縮充	廃止される施設は、解体までを予定した計画ですか？	原則、不要・余剰になった施設は、譲渡等の様々な手段で処分もしくは利活用を図っていきたいと考えています。場合によっては解体して土地として活用する場合がありますし、建物をどなたかに使っていただく場合もあるかと思えます。本計画は、現状の施設をどうしていくかという計画ですので、廃止された後の施設に関しては余剰施設として、地域の皆さまと扱い方を検討していきたいと考えています。	
17	再配置の方向性	縮充	複合化を予定する施設は、新築を前提としていますか？	支所周辺の施設を第Ⅲ期に複合化の検討をしていきたいと申し上げた関係でお伝えすると、第Ⅲ期にほぼ全ての施設が耐用年数を迎える時期になりますので、基本的に既存の施設を使うことは耐用年数が到来した施設を改修して使うということになります。恐らく費用対効果の面から、古い施設を改修するより新しい施設を建てた方がいいのではないかと思います。耐用年数が来た時に複合化を検討する場合、新しい施設を建てるときに複合化を検討することを考えています。これらは大須賀支所の周辺施設に関してですが、他に関しては耐用年数が来る前に複合化を検討することもあります。既存の施設がまだ使えるのであれば、もちろん無駄に壊すというわけではなく、有効活用する選択肢もあります。	
18	再配置の方向性	小中学校の再編	なぜ児童数が100人を切ったら統合しなくてはならないのか。	児童数が100人を切る小規模校は、子どもの学びや学校の運営上様々な課題があると考えています。全学年が単学級(=1学年1学級)でも、1学年20人程度の児童がいれば十分な教育活動ができると考えられますが、十数人になるとそれが難しいため、目安としては児童数が100人を切った段階で統合に向けた検討をスタートすることが、学校再編の観点からも望ましいと考えられます。昨年、策定した学校再編計画にも明記しております。	
19	再配置の方向性	小中学校の再編	学校施設の統廃合？再編実施は具体的計画が地元而降りてからのどのくらいの年月を考えているか？	最低で概ね5年程度と考えています。具体的には協議・検討として地元の方々とは話し合いをしながら、こんな学校をつくりたいという御要望を伺い、1つの構想にまとめるのに1年くらいを要します。その後、基本・実施設計として学校施設の設計をしていきますが、こちらも地元の方々の御意向を踏まえ反映していくと2年くらい、それから実際の校舎をつくるのに2年くらい掛かるということで、あわせて5年程度と見立てております。	

No.	大項目	項目	質問内容	回答要旨	備考
20	再配置の方向性	小中学校の再編	大淵小の統合は建物の老朽化と人数の減少、どちらがポイント？	どちらも再編を考える原因となっています。老朽化の点は、大淵小学校は昭和48年に現校舎ができており、既に築50年以上が経過しています。人数の減少の点は、今から10年前の平成26年に児童数が173人だったのが現在131人と、10年間で42人減となっておりますので、この減少率でいくと更に10年後には100人を割ることになり、従って、どちらも統合等への影響は大きいということになります。	
21	再配置の方向性	小中学校の再編	横須賀小学校・大淵小学校の統合は、場所を決めているのか？ 2028年までのI期なので。	場所等の検討はまだ決めていません。今後、住民の皆さまの御意見を伺いながら検討してまいります。2小どちらかの用地になると思いません。ただ、統合により児童数が増えるとある程度の広さが必要になるため、その点も踏まえて検討していきたいと思えます。	